

立正大学社会福祉学会ニュース

第 44 号

2025. 3. 20

目 次

総会を開催いたします	1
第 26 回研究大会を終えて	1
第 26 回研究大会研究発表者一覧	2
事務局便り	3

総会を開催いたします

早春の候、会員のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のことと存じます。下記の日程で、2025 年度立正大学社会福祉学会総会を開催致します。

日時：2025 年 5 月 28 日（水）16：30～（予定）

会場：立正大学熊谷校舎 19 号館（アカデミックキューブ）教室未定

※実際の実施日は学会ホームページにてご確認ください。

※欠席される会員の方は、学会ホームページの各種ダウンロードより、委任状をダウンロードし、必要事項を記入後、社会福祉学会宛に送付してください。

第 26 回研究大会を終えて

11 月 2 日（土）に立正大学熊谷キャンパスにて立正大学社会福祉学会第 26 回大会が開催され、121 名の参加（学内会員 22 名、学外会員 4 名、非会員参加者 6 名、大学院生 10 名、学部生 67 名、非会員発表者／招待者 12 名）がありました。当日は星霜祭もあり、学部生も多く参加しました。

午前中は研究発表と実践報告があり、素晴らしい発表とそれに対する質疑応答により充実した時間となりました。午後のシンポジウムでは「災害多発社会において市民・学生・福祉施設は何をすべきか？」をテーマとして報告、ディスカッションが行われました。まず、社会福祉学科の新井利民先生より能登半島地震へのボランティア活動の報告に続き、シンポジウムの趣旨として、「被災の当事者、支援の当事者になり得るため、どのような準備をする必要があるのか」の提示がなされました。

次に報告として、特定非営利活動法人 チーム東松山 代表理事 松本 浩一 氏からは、「市民活動としての『災害ボランティア活動』」について、立正大学社会福祉学部社会福

祉学科 1 年 小野 慧 氏からは、「能登半島地震ボランティア：未経験の私が活動の中で感じたこと」について、社会福祉法人 けやきの郷 総務部長 内山 智裕 氏からは、「福祉施設の被災と課題～自閉症者施設の被災の実際～」について、それぞれの災害に対する経験をもとに語っていただきました。

そして、ディスカッションでは4名の登壇者によりお互いに質問し合う形で、災害に対してどのように関わっていくのかについての考えを深めていくことができました。また、フロアからも質問が投げかけられたり、ディスカッションに対する感想が述べられました。

次回の第 27 回研究大会も会員各位の貴重な研究成果、実践報告を発表できる場として、またさらなる会員の学び、交流の場となるよう、会員の皆さまからのご発表・ご報告と大会への参加をお願い申し上げます。

＜第 26 回研究大会発表者一覧＞

1 研究発表 I

司会：藤高 直之（立正大学社会福祉学部）

司会：小山田建太（立正大学社会福祉学部）

- (1) 「中国の農村地域における高齢者のメンタルヘルスの課題 - 労働力流出が高齢者に与える影響を中心に -」

段 一凡（立正大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻 修士課程1年）

- (2) 「地域・家族のつながりが希薄化する高齢者の人生課題と支援」

陳 晨（立正大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻 修士課程1年）

- (3) 「ひきこもり支援における市町村プラットフォームに関する研究」

王 荔丹（立正大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻 修士課程1年）

- (4) 「ダブルケア家族介護者のための介護者サロン：ピアサポートの促進と支援の可能性」

田 宇（立正大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻 修士課程2年）

- (5) 「在宅高齢者の孤独感に関する研究 一通所介護サービスの提供による孤独感の軽減プロセス」

万 天豪（立正大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻 修士課程2年）

- (6) 「日中の保育所における不適切保育の背景にある保育士の子ども権利意識の相違～日中の保育士に対するインタビュー調査の比較を通じて～」

方 汀（立正大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻 修士課程2年）

2 研究発表 II

司会：宮平 千穂（立正大学社会福祉学部）

司会：門脇 大輔（立正大学社会福祉学部）

- (1) 「埼玉県の地域教材に関するカリキュラム開発（その5-1）ー子供への願いをのせて作られる加須のこいのぼり（社会科・生活科）ー」

石橋 昌雄（前立正大学）

稲津 望未（加須市立元和小学校）

松崎 千佳（深谷市立深谷小学校）

宮永 美優（鴻巣市立広田小学校）

日下部 正叡（宮代町立百聞小学校）

- 佐々木 七海(朝霞市立朝霞第五小学校)
- (2)「埼玉県の地域教材に関するカリキュラム開発 (その5-2) ー子供への願いをのせて作られる加須のこいのぼり(道徳科・音楽科)ー」
石橋 昌雄(前立正大学)
金児 柚香(坂戸市立入西小学校)
橋本 遥(寄居町立男衾小学校)
松本有梨沙(深谷市立川本北小学校)
三宅 真白(ふじみ野市立東原小学校)
- (3)「『福祉×アート』についての研究：日本各地の障害者アート展の報告」
佐久間千嘉(社会福祉学部 社会福祉学科 1学年 チャレンジ奨学生)
- (4)「GIGAスクール構想後の特別支援学校におけるICT機器活用推進に関する研究ー「特別支援学校におけるICT機器を用いた児童生徒の更なる成長に繋がる学習を実現するプロセス」に関する考察ー」
大矢孝太郎(立正大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻 修士課程2年)
- (5)「中国農村地域における村民委員会の役割と高齢者介護支援の現状」
単 旭生(立正大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻 修士課程2年)
- (6)「日本における中国人の老後不安に関する研究」
張 曉婷(立正大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻修士課程2年)

3 実践報告

- 司会：白井 健次 (立正大学社会福祉学部)
司会：村尾 泰弘 (立正大学社会福祉学部)
- (1)「未就学児の遊びの広場「ハグくま広場」の実践」
奥富 庸一・山田 修平(立正大学社会福祉学部)
岩下 聖香・清水 梨音(立正大学社会福祉学部子ども教育福祉学科)
- (2)「飯能市立美杉台小学校における実践」
島村 貫太(飯能市立美杉台小学校 教諭)
- (3)「児童養護施設おお里における実践報告」
佐藤 萌香(埼玉県社会福祉事業団 児童養護施設おお里 指導員)
- (4)「右半身麻痺のある生徒が手すりを使い、歩行できるようにしていく支援と手だて」
田口 飛翔(埼玉県立和光特別支援学校 教諭)
- (5)「営みとしてのアート表現について ー被虐待児童のアート表現理解に向けてー」
吉澤 弘明(立正大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻 博士後期課程2年)
- (6)「聴覚障害児(者)の読話を妨げる同唇形異音語について」
白井 健次(立正大学社会福祉学部)

・・・・・・・・・・・・・・・・ 事務局便り ・・・・・・・・・・・・・・・・

<第27回研究大会(2025年度)のご案内>

詳細については、新年度に入ってから改めてご案内いたします。

<学会誌『立正社会福祉研究』の原稿募集>

立正大学社会福祉学会では、学会誌を発行しています。日頃の研究、実践の成果をま

とめた論文をぜひ投稿してください。次回、第 28 巻の投稿締切りは、6 月 30 日、発行は 11 月です。詳しい投稿規程については、学会誌あるいは立正大学社会福祉学会ホームページ(<https://ris-fuku.jp/society>)の各種ダウンロードをご覧ください。また、投稿の際は、各種ダウンロードより、投稿申込書をダウンロードし、必要事項を記入後、論文に添えて社会福祉学会宛にご投函ください。メールでの提出の場合は、投稿申込書を本文に書き添えてください。社会福祉学会の住所及びメールアドレスは、次頁枠内をご覧ください。

論文のほか、活動・実践報告、図書紹介、資料などの投稿も合わせて募集しています。普通会员、学生会員問わず、多くの皆さまからの投稿をお待ちしています。

なお、学会誌はオンライン化され、立正大学図書館の立正大学学術機関リポジトリ(<https://rissho.repo.nii.ac.jp>)に収録されていますので、そちらをご覧ください。冊子媒体での会員への配布は行いませんのでご承知おきください。

<学会誌優秀論文賞・研究助成金の募集について>

学会には、「学会誌優秀論文賞」と「研究助成金」の 2 つの研究奨励制度があります。

「学会誌優秀論文賞」は、学会誌に投稿された論文の中から優秀と認められるものに授与されます。日ごろの研究成果を学会誌に投稿し、優秀論文賞の受賞を目指してみませんか。また、「研究助成金」については、研究題目、研究目的、研究計画等を記入した所定の申請書を提出した者の中から、特に意欲的に研究に取り組んでいると認められる者に研究助成金を学会より授与する制度です。

2 つの研究奨励制度は、学生会員・普通会员が対象となります。募集要項については、立正大学社会福祉学会ホームページ(<https://ris-fuku.jp/society>)の各種ダウンロードに掲載されていますのでご覧ください。

なお、「研究助成金」の締切は 5 月末日です。皆様からの応募をお待ちしています。

<会員異動のご連絡について>

会員の皆様につきまして、住所やご所属の異動がございましたら、メール、fax により学会事務局まで連絡をお願いいたします。

連絡先：立正大学社会福祉学会事務局

e-mail：2016welfare@ris.ac.jp f a x：048-536-2522

《会費納入のお願い》

同封の郵便振替用紙にて 2025 年度会費（3,000 円）の納入をお願いいたします。

なお、2024 年度会費（3,000 円）を未納の方（封筒の宛名の下が表示が「2024 年度会費 未」となっている方）については、そちらも合わせて 6,000 円の納入をお願いいたします。

注）立正大学社会福祉学部の現役教職員（学内会員）の方の年会費については後日別途徴収しますので、上記口座への払込みはしないでください。また、大学院生の方は年会費の支払いは不要です。

（郵便振替）00110-0-159111 立正大学社会福祉学会

立正大学社会福祉学会ニュース／第 44 号 編集発行：立正大学社会福祉学会
〒360-0194 熊谷市万吉 1700 立正大学社会福祉学部内
TEL：048-536-1328 FAX：048-536-2522 e-mail：2016welfare@ris.ac.jp
発行日 2025 年 3 月 20 日